

2024年8月吉日

署名にご協力下さる皆様

子どもと教育を守る高知県連絡会
代表世話人 井上 美穂

ゆきとどいた教育を求める（すすめる）署名へのご協力のお願い

拝啓

日頃から、子どもたちにゆきとどいた教育を実現するために、様々なご協力をいただきまして、ありがとうございます。

さて、私たち子どもと教育を守る高知県連絡会（略称・子連）では、標記の署名に全国のとりのくみと共同しながら高知県内各地でとりのくんでいます。

この署名を県議会と国会へ請願（昨年は高知県で5千2百筆余、全国で48万筆余を提出）することで、少人数学級の実現や高校授業料無償化、私学助成の拡充など、教育条件の改善を進めることにつながってきました。

高知県内でも、独自の少人数学級や小1を含む複式学級の一部解消、エアコン設置の県独自補助、就学支援制度入学準備金前年度支給などが実現し、県内市町村では、給食無償化や副教材費の補助も広がりつつあります。

高知県では、小学校1、2年生が30人、小学校3年生から中学校3年生までが35人学級になっていますが、欧米諸国に比べればまだまだ多いのが現状です。一人ひとりの子どもの寄り添った教育推進のためにも、さらなる少人数学級の実現が急務です。

また、小規模校の多い高知県では、現在16人（小1を含む場合や中学校は8人）の複式学級編制基準の改善や、小規模中学校の免許外教科担当の解消、養護教諭の全校配置などのために高知県独自の教職員配置の充実が求められます。さらに、全学年混在でも8名という特別支援学級の定員改善も待ったなしの課題です。

そうした中、深刻な教員不足が問題となっています。子どもたちの教育環境が大元から掘り崩される事態にもなりかねません。その主な原因が教職員の長時間で過密な働き方です。教職員定数（義務・高校標準法）の改善で正規教職員を増員するとともに、他県に比べて飛び抜けて多い「学校にいない先生」（充て指導主事）を現場に返すことなど高知県独自の対策も行い、子どもたちのために安心し、ゆとりを持って働ける学校にしなければなりません。

連続する物価高騰により、高知県内の子育て家庭の経済的困窮はより深刻になっています。教育費の保護者負担のさらなる軽減、給付制奨学金制度の拡充、大学等の学費引き下げなどを実現することは、経済的に心配なく子どもたちが学ぶことを保障するとともに地域社会の発展にとっても重要となっています。

この署名を広げることで、教育予算増額などにより、こうした願いの実現をめざしたいと考えています。

つきましては、大変お忙しい中、恐縮ではありますが、可能な範囲で、この署名にご協力いただけませんか。署名は、大人はもちろん、未成年の方でも結構です。ぜひよろしく願います。

皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

敬具

【署名について】

①締切は、11月末です。

- ・高知県議会への提出は、毎年12月県議会の開会日を予定しています。
- ・国会用と県議会用の左右5名ずつですが、全て埋まらなくても結構です。
- ・国会への提出は2月下旬の予定です。これに間に合えば国会向けは有効です。11月末以降でも国会用はご協力下さい。

②署名は、同封の返信用封筒で子連事務局までお返し下さい。なお、切手を貼らずそのまま投函して下さい。

*お問い合わせは、子連事務局（高知県教組内）石川（088-822-4135）まで